

京都 猟師の技術伝えます

増える獣害 対策に来月教室開講



説明会参加者に「獵師」という仕事への思いを語る
境内さくだから(大日) 京都市上京区

上京のNPOなど企画 府北部で実習

京都市上京区のNPO法人と、京丹波町の獵師が、狩猟の学校「KYOTO 獵師教室」する。獵師の減少が獣害増加の一因となっており、担い手を増やそうと企画した。獵師口外しないが、なりわいとして成り立つことを知つてもらいたい」と自らの経験を伝える

農山村地域の活性化を目指すNPO法人「いのちの里 京都村」と獵師 境内恩正さん(52)=同町。

教室は狩猟免許不保持者も含め、習熟度別に3コースを設ける。獣害が広がる背景や免許取得方法など基本知識を座学で学ぶ。府北部の山林で効果的な狩猟方法や解体処理などを専門さんの指導で実習する。

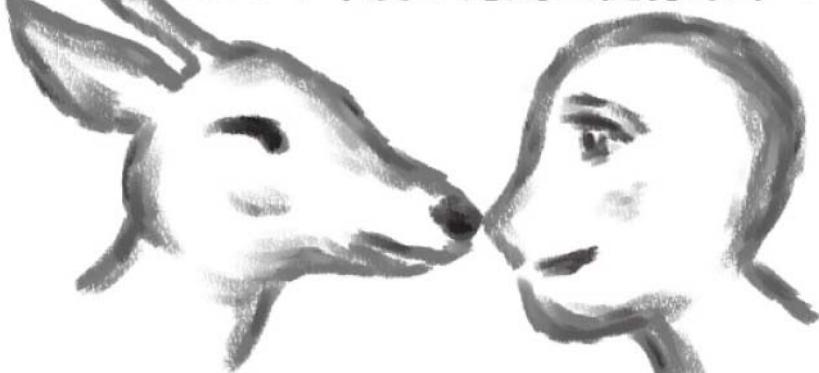
府によると、2012年度の府内の獣害被害額は2億3300万円。高齢化が進む農村では、シカやイノシシが農作物を食べることで農業をあきらめ、耕作放棄地の増加につながっているという。一方、高齢化などで獵師の数は減退へ。342人で、最多の1976

京丹波の現役、解体処理も

△丹波紙2たにと伝が す獵師の参加の 色城商人マイ た年

日本の立て直しは、ここからはじまるのかもしれない。

「KYOTO 獵師教室」 2014年度1月期生徒募集中！



未来をつくる職業「獵師」を養成する本格的な「獵師の学校」が、京都府京丹波町で開校します！

【なぜ獵師が必要なのか】

現在、多くの田舎では深刻な獣害に悩まされています。田畠では毎晩のように鹿やイノシシが現れ、一生懸命育てた農作物も、たまたま一晩で食い尽くされてしまいます。私たちが当たり前のようになく食べている新鮮な野菜やおいしいお米を作ってくれていてる農作物は、私たちの知らない、いくつもの深い壁を乗り越えて、やっと食卓に並んでいるのです。しかし現状では、多くの田畠がその壁を乗り越えることができていません。そしてその原因のひとつにるのが獵師の減少です。皆さんは獵師に対して、どのようなイメージを持たれているのでしょうか。危険？食べてしまいけない？女性がやる農業ではない？難しい？何かなかボジョリな印象を持ちにいかもしれません。ですが、鹿肉や豚肉は牛や豚よりも高価で販売できる上に、獣害駆除に對しての補助金制度もあります。收入も得られて、しかも社会貢献ができる立派な職業なのです。このように獵師という存在は求められている人材・職業であり、またひそかなゲームを巻き起こしているのです。

【獵師の学校とは】

日本には本格的な獵師の学校が存在していません。今活躍している現役の獵師は、そのほとんどが独学で勉強し、独自で生み出した技術で山を知り狩猟していました。つまり伝承する術がないのです。「KYOTO 獵師教室」が開校されれば、おそらく日本初の取り組みとなります。また、育成の場には食肉加工施設も併設されており、「捕獲から加工、販売まで」の一連の流れを学ぶことができます。獵師だけではなく、解体処理の実習もカリキュラムの中に組み込まれていたり、「いのちをいただく」ということの尊さや厳しさも一貫して学べる学校となっています。

クラス	対象	内容	期間・定員	学費
① 獵師入門コース	獵師に興味があり、狩猟を考えている人(狩猟免許を持たない人)。年齢、男女不問。	模擬体験などを通じて狩猟の全体像を把握し、獵師の扱い手育成を目的としています。	月2回(全6回)開催 平成26年1月11日開校～3月末まで。定員2名。	3万円(交通費・セミナー参加料・(必要に応じ教材費)は別途)
② 獵師初心者コース	狩猟免許を取得して1年以内、又は初心者。年齢、男女不問。	実際に掛り出て、実践的な捕獲方法を学び、地域の獵師の扱い手を目標します。	月2回(全7回)開催 平成26年1月11日開校～3月末まで。定員5名。	4万円(交通費・セミナー参加料・(必要に応じ教材費)は別途)
③ ジビエ獵師育成コース	獵師で生計を立てたいと思う人。	ジビエ獵師として実践的な食肉としての捕獲方法を勉強し、持	1年間。定員2名。	50万円(交通費・セミナー参加費・(必要に応







*自家消費の為の解体方法

ジビエハンター ガイドブック

GIBIER HUNTER GUIDEBOOK

垣内忠正 林利栄子著



進る・さばく・食べる……
ジビエハンターへの道、
教えます！



- ◎ 肉を傷つけない獲り方
- ◎ 一から学ぶさばき方
- ◎ シカ肉料理のススメ

しばらくは…

鳥獣被害対策は鳥獣ビジネスと一体で進める。

ジビエビジネスは…

捕獲鳥獣の肉を流通させビジネス利用することにより、狩猟の経済的リターンを確保し狩猟をするインセンティブを高める。

狩猟者数の増加が見
込める。



雇用創出

獣害対策が進む

これからは...

人材育成



ご清聴ありがとうございました。

株式会社 ART CUBE
京丹波自然工房